

雪育

教育長 津野 庄一郎

「雪育」と書いて「ゆきいく」と読みます。雪遊びやスキーなど冬の活動を通じて子どもの心身の成長を促すという考え方で、言い得て妙な表現です。



2月8日（日）は、「第18回おいしいどもんこ祭り」。実家の除雪を後回しにし、レストハウス大石へと車を走らせました。あたりは一面銀世界。巨大どもんこ（かまくら）をのぞくとボランティアの学生が温かいおしるこをふるまってくれました。隣のどもんこでは七輪での餅焼もちやき。これが実に美味しい。また広場の巨大すべり台ではそり滑りをしたり、イグルー（雪のブロックをドームに積み上げた家）を作ったりする親子もいて、雪遊びを心から楽しんでいるようです。

関川なないろ保育園では、商工会の方々が作ったすべり台で元気に遊ぶ子ども

の様子が入報誌（2月号）1面を飾りました。また、関川小学校では毎年、スキー教室（3～6年生）を胎内スキー場で開催しています。初めてスキーを経験する子どももおり、地域のボランティア指導者の話をよく聞きながら頑張ったとのこと。「もっと滑りたい！」「楽しかった！」との声がたくさんあがったと石田教頭先生からうかがいました。

雪は暮らしの面で難儀なことも少なくありません。しかし、雪は田を潤す貴重な水資源であり、文化を育む大切な自然の恵みでもあります。「雪育」を通じて、ふるさと関川に愛着をもち、たくましく思いやりをもった人に成長してほしいと願います。貴重な学びの場を提供してくださっている関係者の方々に心から感謝申し上げます。

<【写真】おいしいどもんこ祭りの様子>